

2020年11月30日 日本テレビ 定例記者会見

《 要旨 》

1. 視聴率動向と編成戦略

・ 視聴率動向

8月末より13週連続で個人視聴率3冠王だが、目指す数字にはまだ届いていない。コアターゲット層獲得にむけて頑張っている。

・ 編成戦略

年末年始は恒例の「ダウンタウンのガキの使いやあらへんで!」の「絶対に笑ってはいけない大貧民G○T○ラスベガス24時」と「箱根駅伝」を放送し、「嵐にしやがれ」は12月26日(土)19時から4時間生放送で最終回を予定している。

2. 営業状況

・ 放送収入

ネットタイムセールスはレギュラー増収したが、前年に比べてラグビーW杯の反動減があり、トータルでは減収となった。スポットについては、東京エリアは1年8カ月ぶりに前年度比100%超えをした。10月は在京5社の中で歴代1位タイの29.2%シェアを獲得している。スポットが回復傾向の為、上期のマイナスをどこまでカバーできるかが重要となっている。

・ 放送外収入

依然として新型コロナウイルスの影響で、イベントは人数制限やリモート実施等している。今年は福田雄一監督・脚本作品の映画「今日から俺は!!」が興行収入53億を越えているが、12月11日(金)から、同じ福田監督・脚本作品の「新解釈・三國志」が公開されるので是非応援をお願いしたい。

3. 質疑他

Q. 今年一年の振り返りについて

A. 新型コロナウイルスの影響が大きく、今までのビジネスモデルの足元が揺らいだ一年となった。また「天才!志村どうぶつ園」を支えて下さった志村けんさんがお亡くなりになったことは大変悲しい出来事だった。未曾有の出来事であるからこそ、メディアとして社会的役割を果たす使命を痛感している。また、新しい日常の中で「24時間テレビ」が放送出来たことは大きな自信に繋がった。

社内では在宅勤務推奨やオンライン会議など、業務改革を前倒して行ったことが大きな変化。Huluは会員増となり、現在日テレライブ配信のトライアルをTVerで行っている。

来年は生活者の行動スタイルとメディア接触の変化に対応しなければならない。そしてメディアの価値と信頼感、また広告の経済効果などをさらに向上させなければいけないと感じている。

Q. トライアル中のライブ配信について

A. 12月いっぱいライブ配信を行い、終了後に分析をして、必要なフィードバックをする予定。民放1局で行っている施策であり、認知に時間がかかっている為、PRに一層力を入れたいと思う。現状若い方に見て頂けているという印象がある。

・ **箱根駅伝について**

今年の箱根駅伝のキャッチコピーは『応援したいから、応援に行かない』。今の状況を的確に表したキャッチコピーと考えている。

(了)

小杉 善信 代表取締役 社長執行役員
福田 博之 取締役執行役員